

目的

教員としての幅広い視野と能力の伸長を図るため、授業づくりに関する授業参観研究協議を通して、具体的な授業の進め方や、改善方策についての理解を深め、実践的指導力の向上を図る。

期日
会場

令和7年6月26日(木)13:10～16:30

佐伯市立佐伯小学校 19名出席(初任者13名、拠点校指導教員4名、市教育委員会2名)

内容

1 説明「授業参観の視点」

- ・主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善について
- ・授業参観の視点について

＜説明者＞大分県教育庁佐伯教育事務所 指導主事 中津留 浩次

2 授業参観 3年国語「作者になりきって、ぴったりのお話の続きを考えて、演じて楽しもう」

＜授業者＞佐伯市立佐伯小学校 教諭 甲斐 満希子 先生

3 授業研究会「授業の中の主体的・対話的で深い学びの場面を探り、自分の授業改善にどう活かすか」

- ・授業者から本時の授業について
- ・I wannaシートをつかった研究協議
- ・まとめ、振り返り

＜助言者＞佐伯市立佐伯小学校 教諭 甲斐 満希子 先生

大分県教育庁佐伯教育事務所 指導主事 中津留 浩次



【研修後の初任者の声】※抜粋

【参加者による研修全体評価】3.8(4段階法)

○様々な言語活動がある中で、今回はペープサートを用いた実践を見ることができた。そして、並行読書材の選定や単元を見通した課題の設定、全文掲示など、国語の授業方法の基礎を学ぶことができた。今後は、色んな実践例や言語活動例をさらに学んでみたいと思った。

○これまでの学習で大事だったことなどを「学びログ(学びの地図)」として掲示し、以後の学習や振り返りに活用していくことや、具体物の準備や児童の活動のお手本の提示、指示の的確化・明確化の必要性など、授業参観をする中で、児童のために学びを深めるための活動や準備がたくさんあることに気づくことができた。

○主体的・対話的で深い学びを実践するためには、教員が何事にも目的意識を持って取り組むことが重要であるということを知りました。例えば、何のために教科書ではなく全文シートを使うのかを考えることや、音読でも「この部分に注目する」、「登場人物の気持ちに注目する」などの目的を持って読ませることが大切であると学びました。